

令和4年度 北海道社会教育主事会協議会研究テーマに係る実践報告書

空知	管内	芦別	市・町・村
<p>●実践の概要</p> <p>芦別市地方創生塾の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々な機関や住民等との連携によるワークショップ等の実施を通して、地域活動やまちづくりに資する人材を育成し、地域の活性化に寄与することを目的とする。 ・芦別高校と連携し、「高校生が放課後に立ち寄れる場所や世代間交流ができる場所づくり」をテーマとした高校生カフェの実施 ・対象：高校生 ・主な連携・協働内容：芦別高校及び塾長（2名）を中心に高校生が主体となった企画・実施 			
<p>●実践に至るまでの経緯・準備したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芦別高校から講演会（総合的な探究の時間）の講師を紹介してほしいとの依頼を受けた。 ・令和2年度から令和3年度までの2年間、「ほっかいどう学地方創生塾（北海道立生涯学習推進センター主催）」を実施 ・令和3年度、市の寄付金の受領を機に、高校生カフェの具体的な実施に向けた活動に転換 ・令和4年度、市の独自事業「芦別市地方創生塾」として活動を継続 <p>【準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塾長の決定（講演会の講師2名に依頼） ・芦別高校に活動に参加する高校生の調整を依頼 ・経験や技術を要する活動（調理や保健所手続きの助言など）に必要な地域人材の確保 			
<p>●実践で難しいと思ったこと・困っていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生対象のため、ワークショップ等の活動時間が限られること（部活や生徒会など） ・令和4年度から、「総合的な探究の時間」で活動しているが、授業の1つとなったことで、活動時間は確保しやすいが、高校生の意欲的な部分で温度差が生じやすいこと ・学校教育と社会教育の立場から、活動内容に少なからず影響がある ・高校生が主体的に企画・実践の中心となるように進めてはいるが、調理・販売に偏りやすく、最終的には行政頼りの雰囲気となってしまう 			
<p>●改善のアイデア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人達の補助を得ながら、高校生が企画・実践・振り返りまでの一連の流れを作ることで、成長を実感できる仕組みづくり ・ただ販売で終わるのではなく、高校生と地域住民が交流につながる仕掛けづくり ・地域の機関や住民等の関わりや支援を受けられるための事業構築と展開 			
<p>●実践での行政職員の関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塾長と教員及び高校生、地域とのつなぎ役 ・全体の進行管理と予算確保 		<p>●実践後の対象の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生が地域の機関や住民等と関わりながら経験を積むことにより、高校生の自己有用感が向上した（アンケート結果の数値上昇） ・高校教員の地域への関心が高まった。（1学年探究学習への協力依頼など） 	
<p>●実践から導き出された社会教育行政職員の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネート ・各関係団体のフォローやパイプ役 ・教育的な指導・助言 ・人づくり及び地域づくり 			